

実りある航海へ、いざ出港【水高記者DIARY】1月18日

地域 島根

2024/1/26 (最終更新: 2024/1/26)

島根県水産練習船「神海丸」に乗り込み、ハワイ沖で実習に取り組む浜田水産高(浜田市)海洋技術科2年生、関蒼太郎さん(17)、広島市中区出身が船上の日々を記します。



実習生代表としてあいさつする関さん(手前右)



(写真 全5枚)

1月18日 北緯34度1分 東経130度53分

今日はいよいよ出港式。事前の慣らし航海を経て太平洋へと船出する日になりました。私の役目は実習生代表としてのあいさつ。後援会や来賓の方々がお越しになり、報道各社の取材もあるため、責任重大です。

出港式が始まると、県教委の方や校長先生が激励の言葉をくださり、次第に私のあいさつが近づいてきます。緊張で手は震え、頭の中では何度も原稿を読み直しますが、不安は拭い切れません。ついに名前を呼ばれ、マイクの前に立つと、吹っ切れたのか、すらすらと文章が出てきました。こう見ると、緊張と船酔いは似ているのではないのでしょうか。つらいのは吐くまで。あとはなるようになる。

何とかあいさつを終え「自分にしてはよくやったかな」なんて思いながら列に戻ると、わずかですが、家族と話せる時間がありました。

私の母は会場に着いた時から涙を流し、うれしいやら悲しいやら。私までつられて涙ぐんでしまいました。周りをみれば、泣いている顔、笑っている顔さまざまでしたが、皆希望に満ちた顔だったように思います。

しかし、その時間も終わり、名残惜しいですが、船へと戻りました。そして見送りに応えるべく、甲板に並んで手を振りました。次に浜田に戻ってくるのは2カ月後の3月14日。その頃には桜が咲いているなんて、ちょっと信じられません。あらためて、この航海の長さを実感します。

最後に、今日のあいさつから一部を引用したいと思います。

「既に私たちは、8日間を(県水産練習船)神海丸で過ごし、その間に驚くべき成長を遂げ始めています。しかし、まだ克服すべき点が多いのも事実です。ですが私たちは、それが乗り越えられるものであると信じています」

私たちの航海が、どうか実り多いものでありますように。